

板橋区役所前診療所グループ  
**診療所だより** 2020 12月号  
 テーマ：子供の頃好きだったお菓子とそのエピソード

発行：板橋区役所前診療所  
 〒173-0013 東京都板橋区氷川町1-12  
 コスモ・ティエス3階  
 (都営三田線 板橋区役所前駅A3出口  
 養育院とあり)  
 TEL 03-5375-9031



医師：島田 潔

小学校に入学する時に両親が離婚して、母と洋裁学校の一室に間借りして暮らしていました。誕生日は「ショートケーキ」が定番だと思っていたところ、洋裁学校の先生が「モロゾフのチーズケーキ」を用意してくれて、初めは子供心にショックだったのですが、とても美味しく好きになりました。



医師：宇仁 淳

幼少期は伊豆に住んでおり、現在はあまり見かけない駄菓子屋が町に1件のみでした。学校の帰りに剣道の仲間と毎日1本食べていました。甘さと香ばしさと今でも時々食べています。やはり美味しいです。



医師：藤井 秀樹

子供の頃から甘いふ菓子系はあまり好きではなく、もっばらせんべい系を好んで食べていました。当時からあるお菓子を今でも食べ続けています。男子のお菓子選びは保守的で、女子は新しい物へ目が行くのだそうです。服選びと似ていますね(笑)



医師：鈴木 陽一

「それにつけてもおやつはカール♪」や「やめられない、止められない、カルビーかっぱえびせん♪」等、今でも口ずさめることを考えると広告や宣伝ってとても大事なですね。



医師：浅海 直

キャラクターのシールのおまけが入ったお菓子が好きでした。自分は時々しか買えませんでした。箱ごと買ってもらっている友人がうらやましかったです。今ではその反動で大人買いをすることがあります。



医師：伊藤 直

駄菓子屋のすもも漬けが好きでした。実家の近くの駄菓子屋で買って、家に戻る途中、食べ歩きをして紫色のすももスープを上着にこぼし、よく叱られていました。



医師：安井 宏仁

子供の頃、祖父母の家で食べた「むらすずめ」という粒あんをクレープで包んだ和菓子がとてもおいしかったのを今でも覚えています。そのころからあんこは粒あん派です。



医師：三寺 隆之

子供の頃は毎日駄菓子屋に行っていた記憶が…(笑) あん玉(あたるとう白玉が入っている)や、きな粉飴や…おいしかったと思われれます。ソースせんべいのうめジャム(今は作っていない)…懐かしいですね。



医師：御子柴 路朗

子供の頃なかなか食事をとらなかった子供だったらしいのですが、実家の近くのお菓子屋さんの「チーズクッキー」というお菓子は好んで食べていたようです。いまでも機会があると購入することが多いです。



医師：糸山 智

子供のころから「柿の種」が好きです。小学校のサマーキャンプに柿の種を持って行って大人に驚かれ、その時に大人のおつまみだと気が付きました。あなたはピーナッツ派？あられ派？



医師：長谷川 大輔

駄菓子屋のふ菓子が大好きでした。一本ごとに10円をおばあさんに払って、また買ってを繰り返していました。買い物自体が好きだったのかもしれませんが。



医師：中山 昇

子供のころ、地元の下赤塚駅前に『みちくさ』という駄菓子屋があって毎週通ってました。うまい棒はいまでもロングセラーですが、同メーカーのうまいゼリーというお菓子があって、それを凍らして、シャーベットのようにして食べるのが大好きでした。

医療～豆知識～ コーナー

今月のテーマ：高齢者で診る肛門疾患 医師：宇仁 淳



要介護状態の患者さんは排便に苦勞していることが多くみられます。安定した生活のために、様々な方々がサポートしてくださっております。しかし活動量の低下、生活習慣の確立が困難、腹圧を含めた筋力低下、理解力の低下、食事量の不安定さ、長年の下剤服用等があることから、一般的に言われている予防は厳しいことが現状です。若年者を含め最も多い排便回数は3日に1回という統計が出ているように目標を持つのも必要だと思います。肛門疾患の予防には排便コントロールが切っても切れない存在です。排便管理(負担の無い歯磨き粉程度の硬さを目標としています。)では実際に現場でよく見かける肛門疾患についての検討をします。

訴え・症状からの主な肛門疾患

- 肛門が出っ張ったり膨らんだりしている  
内痔核、肛門ポリープ、直腸脱、血栓性外痔核、肛門周囲膿瘍等
- 肛門から出血がある  
内痔核、裂肛、炎症性腸疾患直腸脱、血栓性外痔核、痔瘻、大腸がん、大腸ポリープ等
- 肛門に痛みがある  
裂肛、血栓性外痔核、肛門周囲膿瘍、粉瘤等
- 肛門に痒みがある  
皮膚炎、白癬、カンジダ等
- 便が出にくい  
内痔核、直腸脱、直腸瘤、肛門狭窄等

主な訴え症状と主な肛門疾患です。医師は、このような訴えがある際は診察となります。患者さんの訴えや主訴→肛門周囲の観察→実際に指を挿入しての診察→肛門鏡で内部の観察→相談の上で無理のない方針の決定、投薬や病院受診の有無、外科的処置の必要性の判断となります。高齢者に携わっている私たち医師は、通院困難であることを前提に常日頃患者さんに合わせた負担のない医療を心掛け、お役に立ちたいと思います。

～診療所の取り組み～

平成8年の開院以来、通院が難しくなった「患者さんとご家族のお役に立ちたい」との想いで往診をしています。このコーナーでは、皆さまから頂いたご意見をもとに始める『新たな取り組み』についてご紹介します。

～診療所の取り組み～

★在籍医師の専門性の紹介について

- ・診療所ホームページ『Dr 紹介コーナー』に“専門”を掲載
- ・「診療所だより」に”医療～豆知識～”のコーナーを新設し、当院医師が現場で役立つ知識を輪番で執筆

★ご家庭の新規往診依頼への対応力向上

- 2名の医療相談員が連携して、漏れなくスピーディーにご相談/ご報告出来る体制作り
- 早めに初診が組めるように、医師たちの毎週の新規往診の対応枠をpickupして管理

★電話対応の改善について

- 接遇と伝言のお預かりや折り返しの徹底など、ご要望/苦情を所内で共有し研修を実施へ

★事業所間の情報共有/連携について

- 介護医療連携クラウド「カナミック」「MCS」を全ての医師が適切に使用できるよう研修会を開催へ

これからも「皆さまに応援して頂ける医療機関でありたい」との想いを胸に、スタッフ全員で努力します。

院長 島田潔